

被表彰者の略歴及び主な功績

坂本 トヨ子 （さかもと とよこ）	
略歴	鳥取県教育委員会委員 （平成22年12月から現在）
主 な 功 績	<p>（1）学校教育の充実 人とのつながりの中で自立し、ふるさとの未来を創造する人づくりを進めるため、本県の児童生徒の学ぶ意欲の高揚や学力向上に着実に取り組むと共に、保護者の視点から、安全安心な学校づくりに向けて様々な角度から、施策の充実に取り組んだ。 また、自身が企業経営者であることからキャリア教育の充実には特に力を注ぎ、特別支援学校生徒におけるインターンシップの重要性や工業・林業系の県立高等学校における技術者養成のためのカリキュラムの充実に力点を置いた取り組みを進めた。 加えて、地域の活性化のためには、高等学校との連携が重要であるという観点から、自身の地元である智頭町と地元観光業界、智頭農林高等学校とを繋ぎ、それぞれが連携して取り組んで作成した観光プランが「第5回 観光甲子園」でグランプリ（文部科学大臣賞）を受賞する等、柔軟な発想から具体的な成果に結びつけるなど、地域振興にも大きな成果を挙げている。</p> <p>（2）文化、芸術活動の振興 自身の経営する企業が、林製品のデザイン開発等を手がけていることから、文化・芸術活動に対する造詣が深く、他県の美術館、博物館への視察や全国高等学校総合文化祭への参加など精力的に行っている。平成27年度に鳥取県を主会場に開催した「近畿高等学校総合文化祭 鳥取大会」では、それまでの活動を通じて得た知見を活かして、文化部高校生と特別支援学校の生徒との共演や、まんが部門の開催など鳥取県らしさを出しながら成功に導くなど、文化・芸術活動の一層の充実を進めている。</p> <p>（3）教育行政 鳥取県教育委員会委員として平成22年12月の任命から7年の実績があり、平成12年10月から平成20年9月まで鳥取県八頭郡智頭町教育委員会委員として教育行政の進展に寄与した。</p>

北尾 慶治（きたお けいじ）

略
歴

米子市教育委員会教育長（平成21年5月から平成30年3月）

主
な
功
績

（1）学校教育の充実

在任期間を通して、国の動向を見極めつつ、米子市の教育行政に「教育」の普遍的な使命と「教育の保障」を先頭に立って導いてきた。平成24年度には、国、鳥取県の取組や地域社会の現状を踏まえながら、中長期的な視点で教育施策を体系的かつ効果的に実施していくために、学校教育の充実等について、今後目指すべき教育の基本理念や講ずべき基本施策を明らかにした「米子市教育振興基本計画」の策定を行った。この計画に基づき米子市の学校教育施策の積極的な推進を行っていくとともに、毎年度の点検・評価や新たに対応すべき教育課題の検討も行った上で、平成29年度には計画後期間の基本施策策定を行った。

具体の施策としては、義務教育9年間の学びを連続したものとして捉え、各中学校区の実態に合わせた連携をより充実し、目標の一貫化、内容の系統化、指導の継続化を図った「米子市版小中一貫教育」の実施や、いじめの未然防止、早期発見及び対処のため「米子市いじめ防止基本方針」を策定するなど、よりよい学校教育のために尽力した。

（2）文化、芸術活動の振興

文化、芸術活動についてはその重要性を強く認識し、厳しい財政状況の下で、教育関係施設に係る維持管理経費の削減はもちろん、施設運営の効率化に努める一方で、市立図書館、美術館については大規模改修に必要な予算をしっかりと確保し、より市民に親しまれ、使いやすい施設への改修を達成した。

また、「ふるさと米子の先人に学ぶ郷土資料集」の発行や、史跡米子城保存活用計画の策定など、幅広い場面で文化、芸術活動の振興に寄与した。

（3）教育行政

平成21年度から約9年間に渡り、米子市教育委員会教育長として教育行政の推進に尽力した。

また平成29年度には鳥取県都市教育長会会長に就任し、会の中心的な役割を担った。

福井 伸一郎（ふくい しんいちろう）

略
歴

倉吉市教育委員会教育長（平成21年4月から平成30年3月）

主
な
功
績

（1）学校教育の充実

「地域に誇りと愛着を持つ次世代育成」のため学校教育・社会教育が一体となり児童・生徒を育成するという理念のもとに、地域や学校現場に対して適切な指導・助言を行い、倉吉市の次世代育成を推進した。

「開かれた学校・信頼される学校」を提唱し、市内の全ての学校に地域学校委員会を設置、平成29年にはコミュニティ・スクールに認定され、学校と保護者や市民とともに知恵を出し合い、その意見を学校運営に反映させることで、協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」の仕組みを構築した。

一方で、防災を意識した学校環境整備にも尽力し、学校施設関係では平成28年度に耐震化を完了するとともにトイレ改修等の整備にも着手し平成29年度に改修工事を完了した。鳥取県中部地震において全ての子ども命を守り学校施設の被害を最小限に止めることとなった施設改修施策については、高く評価され、特筆すべきものである。

（2）文化、芸術活動の振興

文化・歴史面においても豊かな見識と指導力を発揮し、多方面において尽力した。

平成22年には「打吹玉川伝統的建造物群保存地区」の拡大選定をはじめ、数々の文化財の県指定・市指定に尽力し、文化財保護の充実に資した。

更に、倉吉博物館では、郷土作家の前田寛治・菅楯彦を顕彰する全国規模の美術展を開催するなど、倉吉の芸術文化ならびに伝統文化の調査研究を高い見識から先導した。その成果は、特色ある倉吉文化の創造として結実し、全国に「薫り高い文化のまち倉吉」を発信するうえでも大きく貢献した。

また、地域の情報拠点、文芸活動の活性化を目指す図書館の充実に努め、図書館の運営方法の改善や環境整備に取り組んだ。加えて地域文芸誌、倉吉文芸の充実に尽力するとともに、平成24年には伯耆国守山上憶良にちなんだ山上憶良短歌賞を創設し全国及び海外から多くの作品を集め、地域の伝統文芸の振興に寄与するとともに歴史文化資産に富む倉吉を広く喧伝することに成功するなど、開かれた図書館づくりを牽引した。

（3）教育行政

倉吉市教育委員会教育長として9年間の実績があり、市の教育行政全般に関して推進の責任者として高く評価されている。

また、全国都市教育長会監事及び理事として、中国地区都市教育長会会長として活躍し、会の運営に貢献した。